

(様式3)

校 種	小 ・ ④	学校番号	1 6	学校名	宇都宮市立晃陽中学校
-----	-------	------	-----	-----	------------

令和5年度 児童生徒指導に関する取組

1 児童生徒指導上の主な実態

(1) 問題行動等調査から

- ・ 暴力行為 0 件
- ・ いじめ 5 件 … 解消
- ・ 不登校 20 件 … 1 学年 2 名 (10 名)
2 学年 12 名 (6 名)
3 学年 6 名 (2 名) ※ () は昨年度の人数

(2) 国・県・市の児童生徒質問紙・学校質問紙などから

・ 「宇都宮市学習内容定着度調査」内「学習と生活についてのアンケート」から、

① 2の(4)「学校生活に満足していますか。」

1 学年 72.7(84.8)% 2 学年 90.6(84.5)% 3 学年 90.9(87.4)%

② 2の(5)学校のきまりやマナーを守っていますか。

1 学年 84.1(94.1)% 2 学年 92.5(95.2)% 3 学年 100(96.5)%

③ 2の(11)【ウ】⑥「先生は、自分のよいところやがんばったことを認めてくれる。」

1 学年 81.8(91.7)% 2 学年 88.7(91.4)% 3 学年 95.5(92.2)%

④ 3の(1)「自分の携帯電話やスマートフォンを持っていますか。」

1 学年 77.3(73.5)% 2 学年 66.0(78.9)% 3 学年 81.8(80.5)%

⑤ 3の(2)①「持っている人で、フィルタリングやキッズケータイを使っている。」

1 学年 73.5(73.4)% 2 学年 56.4(68.9)% 3 学年 60.5(64.1)%

⑥ 3の(2)②「持っている人で、携帯やスマホを使うルールを家庭内で決めている。」

1 学年 76.5(80.1)% 2 学年 61.5(76.2)% 3 学年 63.2(70.8)%

※ () は市の結果

前述の問題行動の実態から、今年度不登校生徒は多少増加した。要因は様々だが、クラスに入れなかったり(集団が苦手)、怠惰傾向だったり、学業不振だったり和不登校の形態が多様化している。不登校の解消や未然防止に向けて、今年度はオアシスルームを開設した。居場所づくりや行きたくなるような学校づくりを継続して行う必要がある。アンケート結果から、学年が上がるごとに、多くの生徒がきまりやマナーを守り、また教師に見守られながら安心して学校生活を送っていることがわかる。「生徒が安心して力を発揮できる学校」を実現するため、生徒一人一人の人格を尊重し、認め・励ます指導を通して自己有用感と思いやりの育成を継続し、生徒が笑顔で学校生活を送れるよう支援していく。

また、本校の携帯電話やスマートフォンの所持率は、市の平均と同程度である、2 学年だけ市の平均を上大きく下回っている。フィルタリング設定状況では2 学年が市の平均より10%以上

低い値になっており、使用についての家庭のルールがないという状態の割合が、すべての学年で多くなっている。情報モラルについて生徒への指導を継続するとともに、取り返しのつかない事件・事故・トラブル等に巻き込まれるリスクに使用者（生徒）がさらされているという点について、契約者（保護者）の啓発を引き続き行っていくとともに、ペアレンタルコントロールができるように保護者にも周知していく必要がある。

（３）学校生活の状況から

- ・素直で明るく、前向きに生活している生徒が多い。
- ・学校行事において３年生を中心に主体的に取り組む生徒の様子が多く見られた。
- ・冷やかしからかいからいじめにつながる案件があった。
- ・スマホやSNSを介した問題等は、今年度はほとんどなかった。
- ・支援を要する生徒の家庭へのアプローチでは、保護者支援も必要になるケースが多く、担任だけでなく学年職員やSC、MS、外部機関を活用した組織的な対応が不可欠である。
- ・個別の支援を要する生徒は多数いる状況であるが、周囲の生徒の理解や優しさによって救われている生徒が多い。
- ・あいさつを自発的に、明朗にできる生徒を増やしたい。

２ 今年度の重点目標

- ・自己有用感を育てる生徒指導と個別支援の充実

３ 今年度の取組（「学校教育スタンダード」に関する取組は文頭に★、「令和５年度指導の重点」に関する取組は文頭に□、不登校対策に関する取組は文頭に○）

○各教科でグループ学習を取り入れることによる生徒同士の学び合いの充実

- ・TPOやあいさつの指導の充実（ソーシャルスキルトレーニングの実践）
- ・昇降口指導（生徒の靴の整頓の徹底）
- ・モデリングによる集団作り

★○□不登校傾向にある生徒・保護者への寄り添い・関係機関との連携強化（積極的に関係を築いていく関わり）

★○生徒が抱える不安や悩みへの対応に、SCやMS等のサポートを積極的に活用し、SCMを中心とした教育相談体制を整える（SCと連携した地域学校園小学校との情報共有）

□○オンライン授業の活用

□○別室（オアシスルーム）登校生徒への支援の充実

- ・特別支援学級の生徒への関わり方の共通理解
- ・個別の支援計画の活用（役割分担と報連相）

□小規模校の良さを生かした組織対応の徹底（スズキ校務を活用した報連相の徹底）

□生徒一人一人の人格を尊重した認め・励ます指導の推進

□いじめ防止対策推進法、学校いじめ防止対策基本方針についての共通理解

□学校いじめ防止基本方針に基づいた取組の実践（いじめの未然防止・早期発見・早期対応）

- ・定期教育相談の実施

- ・各種調査の活用（Q-U 等）
- ・学校生活アンケートの実施（年４回）
- ・時間割に位置付けた生徒指導いじめ対策委員会
- ・教育相談不登校対策委員会の充実
- ・いじめゼロ集会の実施

□デジタル・シティズンシップの育成を図る指導の工夫

- ・居心地の良い学級づくりと分かる授業への授業改善